



ご来園の皆様の感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟を使用禁止しています。

ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

※ 講演会・講習会等を再開しましたが、定員30名以内です。ご理解ください。

第29回 食虫植物展

- 日時：7月23日(木・祝)～8月10日(月・祝)
- 場所：観覧温室特別展示室
- 内容：ウツボカズラ、サラセニアなど100種展示。
- 販売：7/23の13:00からと、7/24～26

◆7/26(日)「ハエトリソウについて」講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00
(当日会場受付 13:00～)
講師：大谷博行氏
定員：先着30名
参加費：無料(別途入園料が必要)

♪夏の子ども写生大会 募集中!!

7/26(日) 7:30～10:30開催!

★京都彫刻家協会会員が絵画指導!
事前申込 〆切 7/15(水) 詳細は植物園HPで!



🍀「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート!(30分程度)

スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

第4回 帰化植物展

- 日時：8月7日(金)～8月16日(日)
- 場所：植物園会館1階展示室
- テーマ：「侵略的外来植物」
- 内容：帰化植物の写真、解説パネル及び切花等の展示。

◆8/9(日) 帰化植物展開連観察会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00
(当日会場受付 13:00～)
内容：「帰化植物を観察しよう」
帰化植物についての説明及び生育地での観察。
講師：京都府生物教育会 西村 元氏
定員：先着30名
参加費：無料(別途入園料が必要)

🍁「植物園ガイド」が植物案内!

お待たせしました!! 7/16(木)から再開します。

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは当面30分程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
■ 電話075-701-0141で



※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけます。是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」

2020. 7. 10
9号

⑫ タッカ シヤントリエリ

ヤマノイモ科。東南アジア大陸部～マレー半島に自生。コウモリの翼に見える部分は苞、垂れ下がるように付くのが花、ネコのひげのような部分は花を付けなかった未発達な花茎。「Bat flower(コウモリ花)」や「Devil flower(悪魔花)」の別名も

⑪ オウゴンオニユリ

ユリ科。オニユリの変種で、対馬にのみ自生。個体によってかなり変異がある。乱獲のため野生状態ではほとんど存在せず、現在、保存育成が有志の方々の手で行われている。ムカゴが葉の付け根にでき増殖は非常に容易。

⑩ レンブ

フトモモ科。マレー半島原産。食用として台湾、インド、フィリピン等で栽培。果実は直径約3～7cmで赤や緑など様々な色がある。生食しリンゴとナシを合わせたような味わいで、爽やかな酸味があるが果汁は少ない。英名はWax apple。

⑨ ネコノヒゲ

シソ科。インドやマレーシアに自生。花から伸びた雄しべが、猫のひげのように見えることから名が付いた。現地でも同様にマレー語で「猫のひげ」に当たる「クミスクチン」と呼ばれ、古くから薬草として重宝されている。沖縄では三大薬草の一つ

① ニュートンのリンゴ

バラ科。アイザック・ニュートンは、リンゴが樹上から落下する様子を見て万有引力のアイデアを得たといわれ、この時のリンゴの木が「ケントの花」という栽培品種。この個体は原木が老衰で伐採される前に接ぎ木で増やされたうちのひとつ。

② アガパンサス

ヒガンバナ科。南アフリカ原産。別名「アフリカンリリー」と呼ばれるほか、君子蘭に似ていることから「紫君子蘭(ムラサキクンシラン)」という和名もある。ギリシャ語で愛を意味する「agape」と、花を意味する「anthos」が名前の語源。

③ ハス

ハス科。インド、中国、日本などに自生。花は日の出から咲き始め、昼頃には閉じてしまう。この開閉を約4日間繰り返した後、花びらが散る。和名の「ハス」は、花が散った後にできる果托(かたく)が蜂の巣に似ていることに由来。

④ チョウキンレン

バショウ科。中国やベトナムなどに分布。漢字では「地湧金蓮」と書き、外観が地面から金色のハスの花が湧き出したように見えることが名前の由来。また、見た目がバナナにも似ていることから、英名は「チャイニーズ・イエロー・バナナ」。

⑤ アメリカフヨウ

アオイ科。北アメリカに自生。フヨウ属の中では草丈が約1mと低いが、園芸品種の中には花の直径が25cmを超える花を咲かせるものもある。花は朝に開いて夕方には閉じる一日花だが、毎日新しい花が咲くので1か月以上楽しめる。

⑥ ムクゲ

アオイ科。中国やインドなどに自生。日本へは平安時代初期には渡来していたと考えられる。韓国では国花でもあり「無窮花(ムゲンファ)」と呼ばれている。花の少ない夏の間中咲いているように見えるが、多くの花は一日で散る一日花。

⑦ キソウテンガイ

ウエルウィッチア科。アフリカ南部のナミブ砂漠原産。終生伸び続ける1対だけの昆布のような2枚の葉に、地下水を求めて砂漠の地下奥深くまで伸びる長い根。自生地では推定樹齢2千年の長寿な株も。まさに和名「奇想天外」たるゆえん。

⑧ ムラサキバレンギク

キク科。北アメリカ原産。花びらがやや下向きに反って咲く姿が「紫色の馬簾(ばれん)のような菊」に似ることが名の由来。馬簾とは、江戸時代の町火消しが消火活動の目印などに用いていた纏(まとい)にのれんのように付いている部分。

